

町民の声への回答

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

八頭町では昭和 60 年に開催された「わかとり国体」において旧郡家町がホッケー競技の会場となったことから長年にわたりホッケー競技の普及・強化に取り組んでまいりました。その後、ロンドンオリンピックに出場した八頭町出身の佐藤雅子さんの活躍、また、リオデジャネイロオリンピックでは、八頭高校出身の阪口選手、大家選手の活躍もありました。近年では、ジュニアの育成により、平成 27 年、28 年に全国中学生ホッケー選手権大会で八頭中学校女子ホッケー部が 2 年連続準優勝という優秀な成績を収めております。また、平成 29 年度からは、教育委員会にスポーツ指導員を配置し更なるホッケー競技の普及に努めているところです。

このような状況の中で、子どもたちのホッケー練習環境整備の一環として、人工芝のホッケー場の整備を計画し、今年 6 月の定例議会において測量・設計業務の予算の議決をいただいて進めているところです。

また、今年 7 月には住民説明会を 7 月から 8 月にかけて各地域で行政懇談会を開催し説明を行うとともに意見を伺ってきました。その中で事業費についてもご説明しましたが、工事費など約 5 億 5 千万円を予定しており、財源は合併特例債を充当します。この合併特例債は、国から地方交付税として補てんがあること、また、鳥取県にも助成をお願いしており、町の負担は、実質 1 億円程度になると考えています。今回の合併特例債は、20 年償還を予定しているので、八頭町の 1 年当たりの負担は、500 万円程度になる見込です。維持管理費としましては、水道料金、電気料金など年間約 100 万円を見込んでいます。

全国大会、国体の開催についてですが、全国大会などの大会は、全国から選手が集まってくるため限られた期間で開催する必要があります。そのためには、11 人制の大会であれば、11 人制コートが 2 面、6 人制の大会であれば、6 人制コートが 4 面は最低必要となります。八頭高校のコートは、11 人制コートが 1 面、6 人制コートが 2 面しか取れないため全国大会など大きな大会を開催することができません。

このように、「わかとり国体」のホッケー競技会場が旧郡家町に決まってから 40 年にわたり取り組んできた歴史をもつ『ホッケーのまち八頭町』と将来の子どもたちの夢の実現に少しでも近づけるための事業ですのでご理解いただきますようお願いいたします。